

# 学 校 経 営

## 1 本校の教育目標

### ・基本目標

国際社会に生き明るい未来を創造する人間性豊かな生徒の育成

### ・教育目標

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分を大切にし他人を尊重する生徒（徳）</li> <li>○進んで学習し物事を深く考えて行動する生徒（知）</li> <li>○心身ともに健康で、喜んで働き最後までやりぬく生徒（体）</li> <li>○奉仕の心と夢と希望をもち逞しく生きる生徒（奉仕）</li> </ul> |
|---|

\* 徳育・知育・体育・  
奉仕のバランスのと  
れた生徒の育成

## 2 具体的目標(指標)

教 育 目 標	め ざ す 生 徒 像
自分を大切にし 他人を尊重する生徒 (Be integrity)	常に明るく思いやりと協力を満ちた生徒 ・相手の立場に立って考えることのできる生徒(思いやり) ・公德心を身につけた生徒 ・人の話をよく聞き、自分の考えを進んで発表する生徒 ・平和を愛し、自然を大切にする生徒
進んで学習し 物事を深く考えて 行動する生徒 (Be intelligent)	自立的な学習方法を身に付け自発的に学ぶ生徒 ・目標を持って、計画的に学習する生徒（メタ認知能力） ・すじ道を立ててよく考え、真実を追究する生徒（追究） ・自己を理解し、向上心を持ち、努力する生徒（努力） ・常に正しく判断し、勇気を持って行う生徒(決断・勇気) ・教え合い、学び合い共に伸びようとする生徒（協働） ・より良く思考する生徒（考える力）
心身ともに 健康で、喜んで働き 最後まで やりぬく生徒 (Be Healty and tenacious)	自他の生命を大切にし、心と体を逞しく鍛える生徒 ・勤労を尊び、喜んで働く生徒（自立） ・姿勢をただし、根気強く集中して物事の解決に取り組む生徒（忍耐力） ・時間や物を大切にし、きまりを守り、けじめのある生活ができる生徒（基本的生活習慣） ・責任感があり義務を果たす生徒（責任・義務）
奉仕の心と 夢と希望を持ち 逞しく生きる生徒 (Be prepared & Be the best you can be.)	なりたい自分になるために、今を大切にする生徒 ・自分の意志と責任で進路の選択、計画ができる生徒 ・希望する進路の実現を目指して努力できる生徒 ・なりたい自分になるために、全力を尽くす生徒 ・将来の目標に向かって、チャレンジできる生徒

(1) 全ての教育活動の発想と判断の原点を生徒に置き、主人公は生徒である。学校は生徒が教育活動を営む中で、未来社会の準備をする場所である。教師はそのより良い方向への変容を支援するファシリテーターである。そして自主・自立の精神を大切に、社会で生きていくための基礎・基本を培う場である。

- |  |
|--|
| <p>①学校は勉強する場所である (Intelligency) For Knowledge Based Society<br/>(生徒は学校で学んだすべての事を基礎に知識基盤社会を営み、社会に奉仕する。)</p> <p>②学校は心身を鍛える場所である (Healthy life) For Long-life Education<br/>(心と体のバランスのとれた成長を図り、生涯学習社会を営んでいく)</p> <p>③学校は人間関係づくりの能力を育てる場所である (Communication &amp; Control)<br/>(グローバル社会では人間関係づくりが自立した職業人の第一歩となる)</p> |
|--|

(2) 学校教育が成り立つ大きな条件は、生徒、保護者、教職員同士「同じ目標設定」を通じて「信頼関係を構築すること」だと考える。信頼は毎日の教育実践の中でていねいに構築していかなければならない。

(3) 生徒の未来生活の保障のために (生徒一人一人を大切にしたP D C A)

- |   |
|---|
| <p>①授業の工夫改善 (教師同士が授業を日常的に見せ合い授業力を高め合う場の設定)</p> <p>②学級経営の充実 (責任と義務、多くの選択肢があり、相互の心の絆をより太くする)</p> <p>③生徒指導・教育相談 (その場指導、課題の把握、日常的な声かけによる信頼関係、褒めること等で相手を認め、良いことと悪いことの判断ができる一貫した指導)</p> <p>④部活動の活性化 (中学校学習指導要領 (第1章総則第4の2 (13))<br/>学習と部活動の両立、協働意識 (学習意欲向上、責任感、連帯感の涵養等に資する)</p> <p>⑤生徒会活動の活性化 (生徒会のリーダーシップと生徒のメンバーシップの自覚)<br/>(生徒会活動の専門委員会活動と連動し、学級の係の義務と責任の明確化、学級経営に生徒を参画させ、自己決定の場を増やし、自己有用感を醸成する)</p> <p>⑥笑顔、元気な笑い声、清潔でさわやかな教育環境づくり (良い心・良い人間づくりは、良い環境づくりから) → 失敗から学ばせ、褒めて伸ばす</p> |
|---|

(4) 家庭・地域との協働、小学校 (田場、具志川)・関係機関との双方向による行動連携 (自治会、青年会、各関係機関等)

\*平成28年度の一事徹底として

『ベル始業・ベル終業』・・・教職員自ら時間の手本となり生徒に徹底させる。（授業はもちろん、あらゆる日課の中で、「いるべき時間に、いるべき場所に」、全職員・全生徒が実行する。）授業規律、計画的な授業実践

<p>生徒の「なりたい自分づくり」を全校体制で援助し、強みを伸ばすシステム創出が学校力となる。「学力の保障」が基盤となり、生徒の自己肯定感につながる。さらに学校生活全般で義務と責任を果たすことで自己有用感を醸成し、生徒の夢実現で信頼される学校づくりに繋がっていく。多くの選択の場を与えることで各自の人生設計に繋がる。</p>
--

### 3 内外環境の強みと弱み

本校の内外環境を把握するためのSWOT分析は図1のとおりである。

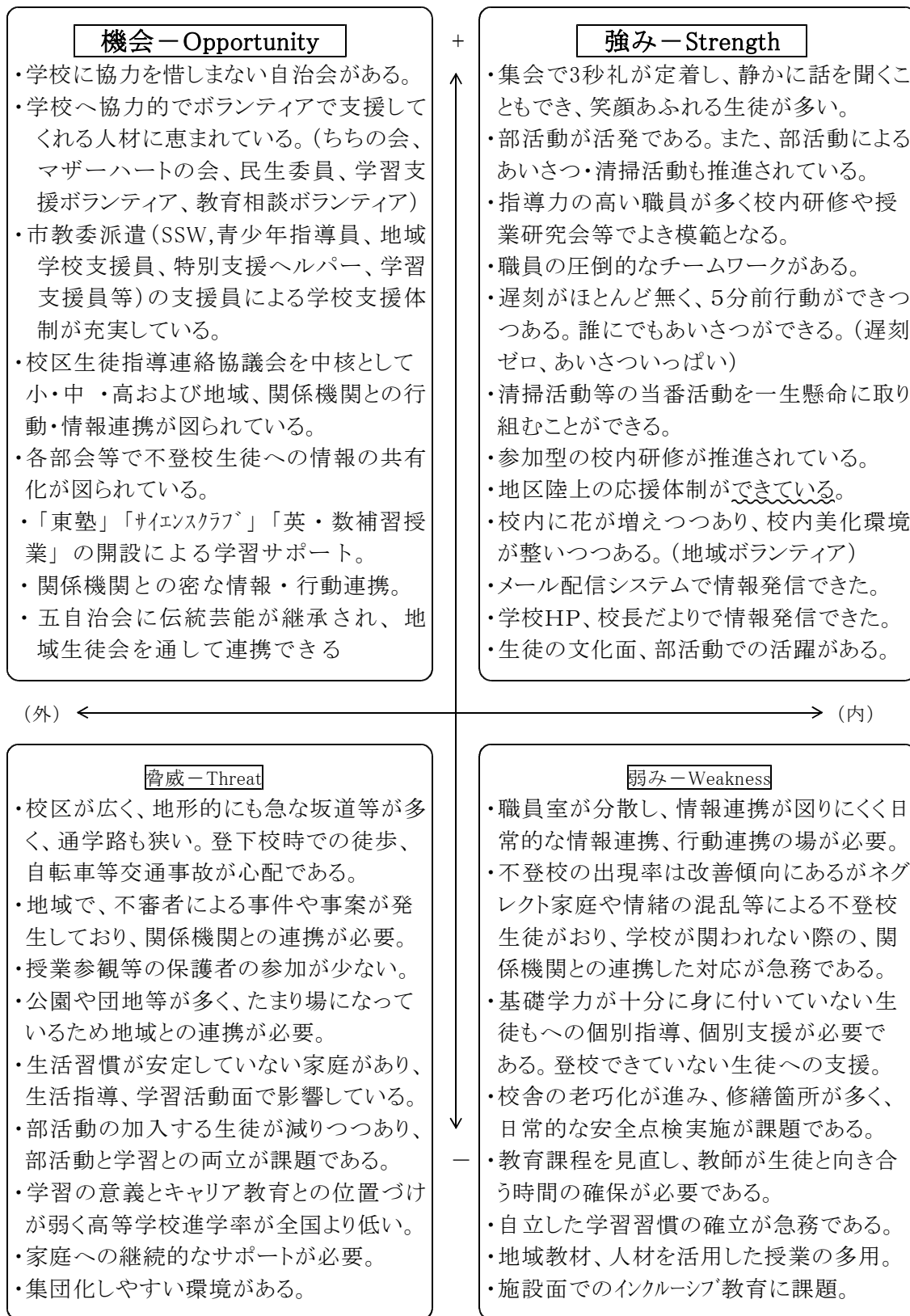


図1 教育活動に影響を及ぼすプラス要因とマイナス要因

## 4 内外環境をふまえた本校の重点課題

### (1)「強み」を生かし、「弱み」と「脅威」を克服する視点からの取組事項

#### 1) 「教職員の率先垂範による時間のけじめ」教育の具現化

- 全体朝会や学年朝会などにおいて、「5分前行動」、「整列」、「3秒礼」、「話し手に顔を向けて静かに話を聞く」などの取組を実施する。(時間、秩序、相手意識の涵養)
- 授業や短学活、諸日課において、「ベル始業・ベル終業」、(一時徹底)「3秒礼」(相手意識)を推進。
- 3F・30(ゼロ)運動を推進する。(基本的生活習慣の確立は社会人の基本)
- 生徒一人一人に役割を持たせ、達成させる清掃活動を通して勤勉と責任を育む。(責任と義務)
- 朝の挨拶運動を実施し、進んで挨拶する生徒を育成する。(社会生活の基本)
- 部活動の生徒指導機能(挨拶、清掃活動)を高め、効果を生徒全体へ波及させる。(協働・奉仕)

#### 2) 「キャリア教育の視点を踏まえ、『わかる授業』の構築による『確かな学力』の具現化

- キャリア教育の視点を踏まえた目的意識の高揚と学習意欲の向上(知識基盤社会への備え)
- 「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる授業(グローバル社会と連動)
- 各種調査を活用した学校経営(科学的データに基づく学級、教科、教育課程のマネジメント)
- 「保護者アンケート」「アクト3」等を用いて学習規律を定期的に評価する。(生徒、保護者サポート)
- 基礎基本の定着を必要とする生徒を対象にした学習支援(補習等)を年間を通して実施できるようにする。(学力の保障による知識基盤社会の準備、知のグローバル化への備え)
- 家庭学習ファイルのモデルを提示し、「授業の予習、復習等」と評価と連動させ自立学習につなげる。
- 学力強化月間(5教科)において「家庭学習での実施時間の確保」「朝読書の充実」等に位置づける。
- 教師一人一人が主体的に参画できる学校内外での研修システムの構築(on/off OJTを意識)
- 学校環境及び指導方法の改善を図り、インクルーシブ教育の充実を目指す。

#### 3) 「自己指導能力や自己肯定感を育てる」等レジリエンス(困難を克服する)教育の具現化

- 自己コントロール、前向きな考え方、安全な環境、地域連携、共感力等で困難を克服する心を培う
- 学級における生徒の民主的な話し合い(個人選択→集団決定)等、集団全体での推進・実践を図る。
- 学級や生徒の課題等の早期発見のための教育相談(QU等)やアンケートを定期的に実施する。
- 生徒会専門委員会活動組織を学級活動組織と連動して活動できるようにする(PDCAで検証)。
- 学校が地域や関係機関等と連携、校区内の諸課題解決のため、校区生徒指導連絡協議会を活用。
- 学校行事等で生徒を主体的に取り組ませ、自己有用感を構築し、自己肯定感へ。(協働の精神)
- 学校だより、メール配信システムやホームページを活用して、日常的に情報発信する。

#### 4) 「家庭・地域・小中関係、関係機関と連携した」教育の具現化

- 家庭が教育の原点であり、学校で重点的に指導し、地域で発展させる。
- 小・中・地域と連携し、「基本的生活習慣の確立」「あいさつ運動」・「学習規律」を培う。
- 校務分掌に各自治会支部担当を整備し、学校と地域の連携強化を図り、地域に奉仕する。
- 地域行事への参加を奨励し、「地域への奉仕と共生」を推進する。
- 学校教育に積極的に地域人材を活用し、「地域人材のモデルによる講義」を通して、生徒の自己実現につなげるようにする。
- 関係機関と情報連携、行動連携し、生徒の健全育成と望ましい環境づくりを図る。
- 学校評議員・学校関係者評価等学校内外の意見を学校経営に生かす。

## (2) 重点目標及び目標連鎖

本年度の重点課題をG1～G25として設定し評価システムと連動するようにする。括弧内は、重点目標について、目標連鎖の行き先(関係する校務分掌)である。

### 【学習指導・研究、研修】

- G1:「わかる授業」の工夫、生徒個々の意見交流・表現する授業の実現。全教科による「キャリア教育の視点(思考・判断・表現)を踏まえた『確かな学力』の向上に取り組む(教科担任、研究主任、学対主任)
- G2:基礎基本の習得・活用・深化を促す授業(発問の工夫、グループ交流学习等、アクティブラーニングの指導例、教科としての道徳)づくりに努め、ねらいを明確(毎授業の目標を黒板に提示する等)にして毎時間の目標達成につながる指導に取り組む。(教科担任、研究主任、学対主任)
- G3:うるま市実践9項目を基に実践9項目を焦点化した授業の改善・工夫(特に最新の機器を活用した指導力『ICT活用指導力』)を図る(教科担任、研究主任、学対主任)
- G4:宿題を課し、授業の予習や復習を行う家庭学習と連動させることで家庭学習実施時間を確保し、望ましい学習習慣の確立をサポートする。(2時間以上)(教科担任、学年主任)
- G5:「ベル始業・ベル終業」や「3秒礼」を実践して学習規律を確立し、授業参観等でのアンケートを活用し、工夫改善を図る(保護者アンケート、「アクト4、生活課題4」)(教科担任、学年主任、学級担任)
- G6:学力強化月間は補習指導を実施し、サポートする(教務主任、5教科、教頭、時間割担当)
- G7:総合的な学習の時間の充実を図る(ルーブリックを活用した評価の工夫及び各教科の指導内容と関連した授業を実施する。)(総合的な学習の時間担当)
- G8:インクルーシブ教育を推進し、特別支援学級での個別の指導計画の作成と活用を通し、学級担任と連携することで特別支援教育の充実を図る(特別支援コーディネーター、学級担任)

### 【学級経営・校務分掌】

- G9:朝活動や朝読書・読み聞かせの充実を図る(学級担任、学年主任、図書館司書)
- G10:学級の係活動を生徒会活動と連動させ、役割を明確にし、各種委員会活動の活性化を図る。(学級担任、生徒会専門委員会担当教師、全職員)
- G11:生徒一人一人に多くの選択肢があり、それらの役割を各自の意志で選択させ、係や当番活動を通して、集団への帰属意識、責任感と勤勉さを育てる(学級担任、清掃分担指導教諭)
- G12:生徒が自主的に取り組む諸行事の確立し、学級集団のチーム力を高める。(学年主任、学級担任)
- G13:キャリア教育の充実による目的意識の高揚と高等学校進学率の向上(全国並みに)(進路指導主任、キャリア教育担当、学級担任、総合的な学習の時間担当)
- G14:「3秒礼」、「あいさつ運動」を推進し、進んで挨拶する生徒を育成する(全職員、生徒指導主任)
- G15:校舎内外の美化活動の推進(学級担任、環境美化主任、生徒会顧問)
- G16:各学年、担任を中心とした生徒指導体制構築を図り、組織で対応する(全職員)
- G17:問題の早期発見と早期対応に努め、予防に重点を置いた生徒指導を推進する。(生徒指導主任、学年生徒指導係、教育相談担当、スクールカウンセラー、SSW)
- G18:不登校及びいじめ等問題行動に対して、生徒指導、教育相談等組織的に対応し、登校復帰を促す(不登校1%目標)(生徒指導主任、学年生徒指導係、教育相談主任、学級担任)
- G19:生徒・保護者及び各学年の要望等を踏まえ、PDCAサイクルに基づく道徳や特別活動の年間指導計画に基づく授業を完全実施し、心を揺さぶる道徳及び自治能力を培う学級活動を工夫する。(道徳教育推進教師、特別活動推進教師、学級担任)
- G20:メール配信、ホームページ、各たより等を活用して、保護者、各自治会との情報連携に努める(校長、教頭、学級担任、地域連携コーディネーター、各係)
- G21:集会等を通して、話を聞く態度育成(教務主任、学年主任、生徒指導主任、学級担任、生徒会)
- G22:校区生徒指導連絡協議会を活用して地域と連携し、地域の教育力を高める(生徒指導主任、教頭)
- G23:安全点検日を完全実施し、早期の改善に努め地震、津波避難訓練等、諸訓練を生かした危機回避能力の育成を図る。(保健主事、安全担当、生徒指導主任、学級担任、教頭)
- G24:計画的な行事運営と積極的な生徒参加を促し、全校体制で取り組む(全職員)
- G25:食育、喫煙防止、薬物乱用防止、エイズ(性)教育、犯罪防止等の社会的ニーズに応じた保健指導でライフスキルの向上を目指す。(学級担任、食育担当者、栄養士、家庭科、保健体育科)

## 5 重点課題を達成するための方法

### (1)方策1

教職員一人一人が、重点課題ごとに学級担任、教科担任、担当係として前年度の成果と課題を踏まえ、PDCAサイクルで課題を検討、検証し、課題解決のために具体的取組を策定し、年間を通して計画的に取り組むことによって、教職員一人一人が同じ目標に向かい課題の解決が図られる。

### (2)方策2

最重要な教育活動については、日常的に自己点検を実施し、組織のPDCA機能を高め、組織の問題解決力を高める。

#### 方策①

教職員一人一人が、重点課題の達成に向けて「自分に何ができるか」の視点から取組課題を個々に設定し、達成する目標管理の手法によって、個々の教職員の努力の方向を統一し、努力を集約し、重点課題にアプローチする。(現状維持は退歩)

**1step**: 校長が重点課題を設定する。

**2step**: 「重点課題の解決に向けて自分に何ができるか」を、教頭、教科担任、学級担任、校務分掌の各係がそれぞれの立場で検討し、取組課題と達成基準を設定する。

**3step**: 各教師が個々ので取組課題を実践し(PDCA)、形成的評価を経て各自の目標を達成する。

**4step**: 各教師の取組課題の達成状況などをもとに重点課題の達成状況を検証する。

#### 方策②

以下のような教育活動評価を実施し、重点目標の達成に向けた形成的な評価を重視する。

- ア) 学習規律チェック(随時)、
- イ) 生徒の自己評価(1回)
- ウ) 授業参観アンケート(2回)、
- エ) 学校評議員アンケート及び学校関係者評価(1回)
- オ) 各教師の具体的取組の自己評価(2回)

## 人生で成功するための実践10項目

- |                          |                                    |
|--------------------------|------------------------------------|
| 1 誰にでも気持ちよくあいさつを         | <b>Greeting</b>                    |
| 2 明るい笑顔で健康に過ごそう          | <b>Cheerfulness</b>                |
| 3 TPOを心得た行動を             | <b>Time・Place・Occasion</b>         |
| 4 わかりやすく、ていねいな言葉でアイコンタクト | <b>Politeness</b>                  |
| 5 給食等、食事のマナーを身につけよう      | <b>Table Manners</b>               |
| 6 公共物を大切に、ルールを守る         | <b>Respect for Public Property</b> |
| 7 相手の気持ちになり、他を思いやる心を持つ   | <b>Considerateness</b>             |
| 8 約束を守り、責任を持ってかかわろう      | <b>Responsibility</b>              |
| 9 進んで人の役に立とう             | <b>Helpfulness</b>                 |
| 10 未来のために今できることを準備しよう    | <b>Be Prepared</b>                 |

# 21 世紀型スキルの構築

